

# 日本政治学会会報

## The JPSA News

NO.9

May 1985

### 政治の場

中村 哲

日本の政治への反省といっても、所詮は自分のことを言うことになるが、二つのことに触れておきたい。一つは政治学と国家との問題の再検討であり、もう一つは政治学と経済学との関連の省察である。このことに関して現実の政治課題としてはマルクス主義のことが、なんといっても大きい、ここに言うのは、それ以外の立場からの問題提起についてである。戦前から戦中の時代を政治学の思い出として持っている世代として語っておきたいのは、マルクス主義という形をとったヒューマンイズム心情のことである。帝国主義、ファシズムという社会現象の軍部と戦争推進者への憎悪という心情から、政治分析と研究が権力分析に向けられて、政治学の対象は自然に国家に向けられたということであった。このため、私の場合には、国家起源論としての君主権発生の比較学的考察から、宗教と政治とが不可分に結びついている社会段階だけに、マックス・ウェバーの宗教社会学に負うところが多いことであった。これは空襲下にはすることもなく、ギールケの『団体法論』のノートをとりつづけているうちに、この本の属する大学そのものが無くなってしまい、私にとっては結局、この本が手もとに残った『台北帝国大学』の名残りとなってしまった。

およそ、政治学を学ぶということは、自己の思想的要求を深めて、より理論的に鍛え上げていくことと、もう一つは対象となる政治現象や特定の思想研究を徹底的に分析することの二つの行き方があり、戦前マルクス主義に求められたのはヒューマンイズム心情に頼って世界の新たな展開を期待することであった。斎藤勇先生は、そのことを『英文学史』のなかでヴィクトリア王朝の知識人の動向として触れて、「当時の一般思想家が神学について関心が深かったのは今日の人々が Marxism について関心なきを得ないのに似ている」と戦前の旧版に記してお

られた。私はこの文章をみたとき、手紙を差上げたところ、折返して戦後の版では、この部分を削除したという返事であった。私の解釈だが、戦後のマルクス主義を称する運動やそれを信奉するとした諸国家を直視して、そのヒューマンイズム心情に多少の理解を示された部分は、削除されたというのであった。

さて、本論に戻すが、昭和9年に大学を出て南原繁先生の下の手助となって、政治学を専攻した時の学界環境は左右田喜一郎博士が展開した新カントの立場からの経済学方法論の刺戟があつて、もっぱら政治学の方法論や政治概念の追求が行われていた時代であった。戦後に改版の上、いくらか古典として上梓されたこともある蠟山政道先生の『日本における近代政治学の発達』がその間の事情を再現させてくれる。当時の論争に関係した人々はすでに亡く、蠟山先生が数年前に去られるということで、この時代に始まる政治学の方法論議は結末をつけずに、戦後の近代政治学の開花となったのである。論争というものは思想についても正否が決まるように思った時期が私にもあるが、事が政治現象にかかわる以上、時間の経過が論争点を押し流してしまうものであることを感ずる。プラトン、アリストテレスの対立、カント、ヘーゲルの思想系脈の対立は形を変えてつねに再生してくるにきまっているが、国家概念からの政治概念の分離ということで、政治学は戦後の幕開きとなった。

私は、この20年というものは、大学の管理という場から学生運動の思想行動に対面してきたが、自分の研究は私事のようにして校庭を離れた自宅に還って続けてきた。そのうち、また一転して、実際の政治決定の場にひき出されることになって、政治の素材に日々直面しながら、いくらか戸まどい考えさせられる場に立たされている。学生運動に対すると  
(次頁へ)

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 1984年度決算承認される

3月30日に神戸大学で行なわれた理事会において、田中・山下両監事より、1984年度決算についての監査報告がなされ、それに基づいて決算は承認された。

別会計(1) 名簿作成積立金		
収 入	前年度よりの繰越 本年度積立金 銀行預金利息 計	338,870 150,000 2,310 491,180
支 出		439,100
差引残高		52,080(円)

別会計(2) I PSA 関係積立金		
収 入	前年度よりの繰越 本年度積立金 銀行預金利息 計	83,789 100,000 1,204 184,993
支 出		0
差引残高		184,993(円)

I PSA 基金		
収 入	前年度よりの繰越 銀行預金利息 計	8,888,050 486,278 9,374,328
支 出		0
差引残高		9,374,328(円)

1984年度 予算・決算			
		1984年度 予 算	1984年度 決 算
収 入	1. 前年度よりの繰越	4,726,453	4,726,453
	2. 会 費 収 入	2,400,000	3,067,080
	3. 雑 収 入	5,000	179,247
	4. 年報特別基金返済	0	300,000
収 入 合 計		7,131,453	8,272,780
支 出	1. 研究会開催費	780,000	774,000
	研究会準備金	600,000	600,000
	報告者謝礼	180,000	174,000
	2. 委員会経費	255,000	255,000
	年報委員会	55,000	55,000
	企画委員会	85,000	85,000
	文献委員会	65,000	65,000
	渉外委員会	50,000	50,000
	選挙管理委員会	0	0
	3. 理事会経費	40,000	26,900
	4. IPSA学会分担金	285,000	281,975
出	5. 事務局経費	660,000	639,730
	理事長通信費	20,000	20,000
	運 営 費	30,000	30,000
	人 件 費	360,000	360,000
	経 常 費	250,000	229,730
	6. 名簿作成積立金	150,000	150,000
7. IPSA関係積立金	100,000	100,000	
8. 選挙管理費	0	0	
9. 年報特別基金	300,000	300,000	
10. 会報発行費	290,000	309,290	
11. 予 備 費	4,271,453	28,920	
支 出 合 計		7,131,453	2,865,815
差 引 残 高			5,406,965

いう小さな校庭の場でも、そうだが、あらゆる可能性を予想して対処した実際問題も、事件が起こり、一つの対策が選択されてしまえば、あらゆる事前の考慮は大河の流れのように後方に退いてしまう。方法論争も、日本の政治対象が、国際的な、時には宇宙的な次元における拡大された視界の中に立たされて、すぎ去っていった感じがある。ところが、昨今は、全く考えさせられるのは、日々に展開されている政治の場に国民の一人として立たされていると、かつてマルクス主義の取扱った国家概念のことや、

政治学の土台となる経済学といった視角とは違って、この問題が再生していることを感ずる。それは昨今、古典派のポリティカル・エコノミーが、エコノミクスの意味ではなく、やはり国家の経済学として把えることだとしているケインズの指摘がその一つである。「ポリティカル」と冠したのは当時でも「国家」の意味であるがゆえに生きているとする考えを、この国際政治の時代において、政治学は経済学と連鎖して、自分たちの問題として省察しなければならないということである。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 1985年度予算決定される

3月30日の理事会において、1985年度予算が別表のように決定された。

1985年度予算		1985年度予算
収  入	1. 前年度よりの繰越	5,406,965
	2. 会費収入	3,000,000
	3. 雑収入	150,000
	4. 年報特別基金返済	0
	収入合計	<b>8,556,965</b>
支  出	1. 研究会開催費	780,000
	研究会準備金	600,000
	報告者謝礼	180,000
	2. 委員会経費	265,000
	年報委員会	55,000
	企画委員会	85,000
	文献委員会	65,000
	渉外委員会	50,000
	選挙管理委員会	10,000
	3. 理事会経費	40,000
	4. IPSA学会分担金	356,000
5. 事務局経費	660,000	
理事長通信費	20,000	
運営費	30,000	
人件費	360,000	
経常費	250,000	
6. 名簿作成積立金	150,000	
7. IPSA関係積立金	100,000	
8. 選挙管理費	300,000	
9. 年報特別基金	300,000	
10. 会報発行費	350,000	
11. 予備費	5,255,965	
支出合計	<b>8,556,965</b>	
差引収支	<b>0</b>	

## 85年度研究会企画決定される

今年10月5・6日に東京大学で行なわれる研究会の企画が一部の未定者を除き最終的に決定された。

10月5日(土) 午前

### 共通論題(I)

#### 「地域研究」と政治学

司会者 矢野 暢 (京都大学)  
 報告者 恒川 恵市 (京都大学)  
 土屋 健治 (京都大学)  
 討論者 木村 雅昭 (京都大学)  
 猪口 孝 (東京大学)  
 村井 吉敬 (上智大学)

### 分科会 午後

#### (A) 「平和研究」と政治学

司会者 谷川 栄彦 (九州大学)  
 報告者 中村 研一 (北海道大学)  
 グレン・フック (岡山大学)  
 討論者 藤原 保信 (早稲田大学)  
 初瀬 龍平 (神戸大学)

#### (B) 「歴史研究」と政治学

司会者 佐々木 毅 (東京大学)  
 報告者 毛利 敏彦 (大阪市立大学)  
 高橋 直樹 (専修大学)  
 討論者 升 味準之輔 (東京都立大学)  
 中村 宏 (島根大学)

#### (C) 「都市研究」と政治学

司会者 松下 圭一 (法政大学)  
 報告者 加茂 利男 (大阪市立大学)  
 古城 利明 (中央大学)  
 討論者 大森 彌 (東京大学)  
 未 定

10月6日(日) 午前

### 共通論題(II)

#### 政治過程と議会の機能

司会者 有賀 弘 (東京大学)  
 報告者 阿部 斉 (筑波大学)  
 村松 岐夫 (京都大学)  
 討論者 篠原 一 (東京大学)  
 内田 満 (早稲田大学)  
 未 定

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 分 科 会

### (D) 政治と「言語」

司会者 福 田 歆 一 (明治学院大学)  
 報告者 田 中 克 彦 (一橋大学)  
 馬 場 伸 也 (大阪大学)  
 討論者 栗 原 彬 (立教大学)  
 中 村 平 治 (東京外国語大学)

### (E) 政治と「マス・メディア」

司会者 内 川 芳 美 (東京大学)  
 報告者 内 田 健 三 (法政大学)  
 藤 竹 暁 (学習院大学)  
 討論者 山 本 武 利 (埼玉大学)  
 未 定

### (F) 政治と「教育」

司会者 内 山 秀 夫 (慶応大学)  
 報告者 前 山 孝 (静岡大学)  
 未 定  
 討論者 未 定  
 未 定

## 84 年度年報刊行される

### 近代日本政治における中央と地方

- I 明治地方制度とフランス 坂 井 雄 吉  
 II 大久保支配体制下の府県統治 大 島 美津子  
 III 「郡県」の観念と近代「中央」観の形成  
 河 原 宏  
 IV 明治初期の政府と沖縄地方 我 部 政 男  
 V 政党領袖と地方名望家 宮 崎 隆 次  
 VI 水利開発と戦前期政党政治 御 厨 貴  
 VII 1930 年代における政党基盤の変貌  
 山 室 建 徳  
 VIII 製鉄合同政策をめぐる中央と地方  
 徳 本 正 彦  
 IX 地方自治制度の再編成 天 川 晃

文献リスト - 1983 年 -

学会報告

日本政治学会年録

日本政治学会  
 文献委員会

日本政治学会事務局

岩波書店

定価 4,700 円

## 年報の在庫の案内

下記の年報については岩波書店に在庫がありますので、御入用の方は書店を通して御購入下さい。

日本政治学会編

日本政治学会年報 政治学 - 1950 年度 (1,400 円)

現代政治学の概観

日本政治学会編

日本政治学会年報 政治学 - 1951 年度 (1,300 円)

政治権力・官僚制・政治的自由等の解明

日本政治学会編

日本政治学会年報 政治学 - 1952 年度 (1,200 円)

権力構造・多数決等の解明

日本政治学会編

国民国家の形成と政治文化

- 日本政治学会年報 1978 年 - (2,500 円)

日本政治学会編

政治学と隣接諸科学の間 - その交渉の現状と課題

- 日本政治学会年報 1980 年 - (3,300 円)

日本政治学会編

現代国家の位相と理論

- 日本政治学会年報 1981 年 - (3,400 円)

日本政治学会編

近代日本の国家像

- 日本政治学会年報 1982 年 - (3,600 円)

日本政治学会編

政策科学と政治学

- 日本政治学会年報 1983 年 - (5,000 円)

## 学術会議研連の新委員が決定される

昨年10月に升味準之輔研究連絡委員に加えてさらに4名の委員の推薦を求める依頼が日本学術会議より本学会にあったため、西川理事長より内田満、田中浩、半沢孝麿、犬童一男の四理事を委員に委嘱し、12月8日の理事会において了承された。なお、本年1月より升味顧問に代って西川理事長が新委員となった。

## 学術会議会員候補及び推薦人が決定される

日本学術会議の新制度への移行にともなう第2部政治学分野への会員候補者及び推薦人の選出方法について、12月8日の理事会において、候補者は理事及び顧問の中から理事による3名連記の郵便投票によって選出することが決定された。この決定に従って投票が行なわれ、本年1月21日に神戸大学において犬童常務理事、三宅選挙担当理事の立ち会いの下に開票が行なわれ、その結果に基づいて西川理事長より升味準之輔、松下圭一の両会員に会員候補が委嘱された。

また、5名の推薦人についても顧問、学術会議会員経験者、理事の中から西川理事長より次の5名に委嘱された。

福田 歎一、松本三之介、内田 満、  
田口 富久治、犬童一男

なお、推薦人会は5月14日に開かれ、升味、松下両氏は会員に推薦されることになった。

## 理事選挙のお知らせ

本年は理事選挙の行なわれる年です。理事35名のうちの20名を会員の皆様の投票により選出します。5月中に会員の皆様に投票用紙を郵送し、6月末日までに返送していただくこととなります。手続の詳細は同時に送られる選挙説明書に記載されていますが、10名連記で、理事選出に必要な票数は30票、選出された理事の任期は1986年10月から2年間です。なお、選挙管理委員会には昨年12月の理事会において次の各会員が委嘱されました。

三宅一郎(委員長)、梅津実、菊井礼次、小平修、宮沢克、村松岐夫

## I P S A ニ ュ ー ス

本年7月15日から20日までパリで開催されるI P S A第13回大会につきましては、本会報第7号において詳しいプログラムを御案内しましたが、日本人が報告者等として関わっている分科会のみ下記に御案内します。なお、日本政治学会からは武者小路公秀、有賀弘、内田満の三理事が派遣委員として、出席します。

### Subtheme I. State and Government in Recent Political Theory

#### 1. Assessment of the Great Theoretical Controversies about the State

##### Session 2. Speaker

加藤哲郎(一橋大学)

### Subtheme II. The Changing Structure of the Governmental Apparatus

#### 4. Changing Relations between Center and Periphery?

##### Session 2. Chairperson

村松岐夫(京都大学)

### Subtheme IV. Global Problems: Challenges to the State

#### 2. Management Issues in Global Transformation

##### Session 2. Chairperson

武者小路公秀(国連大学)

### Sessions of the Research Committees

#### 9. Comparative Judicial Studies

##### Session 2. Chairperson

早川武夫(専修大学)

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 地域別研究会の紹介

全国で数多くの研究会が活発に活動していることと思いますが、本号からそれらの中の幾つかを紹介してまいります。会員の皆様の研究上の情報交換にでもお役立て下されれば幸いです。本号ではまず九州及び中四国地域の研究会を紹介しますが、これを機会に現在活動中のその他の研究会についても事務局まで情報をお寄せ下さい。なお、この企画に御協力下さった会員の皆様にお礼を申し上げます。

### ○九州大学政治研究会

九州大学関係の政治学者を中心とする研究会で、年1回『政治研究』を刊行（現在32号まで）。構成人数約30名。

この半年間の報告者及びテーマ

- 9月29日 『ベトナム戦争の起源』（勁草書房）合評会  
谷川栄彦（九州大学）  
小沼 新（宮崎大学）  
石田正治（九州大学）
- 12月8日 「国体明徴運動の発生について」  
平井一臣（九州大学博士課程）  
「シンガポールの分離独立」  
田村慶子（九州大学博士課程）
- 2月23日 「『上からの革命』と活動家—コムソモールを中心に」  
松井康浩（九州大学修士課程）  
「ソ連留学を終えて」  
高田和夫（九州大学）

### ○近代思想史研究会

九州・山口地区の思想史・法哲学研究者を中心とする研究会。構成人数18名。

この半年間の報告者及びテーマ

- 10月28日 「ヘーゲルと社会契約論」  
三島淑臣（九州大学）
- 12月23日 「ホッブスの主権論—ホッブス国家論の問題提起」  
柳 春生（東海大学）
- 1月20日 「『モンテスキュー研究』（白水社）の問題点」  
梶原愛巳（山口大学）

### ○北九州大学政治学研究会

北九州大学を中心に他大学の研究者も含め、構成人数15名。

この半年間の報告者及びテーマ

- 9月25日 「ベルギーの中立復帰とイギリス外交」  
亀井 紘（八幡大学）
- 10月30日 「ニュートン著『政治は重要か：公共政策の決定要因』の紹介」  
村上芳夫（北九州大学）
- 11月27日 「コーポラティズム、私的諮問機関、グレーゾンポリティックス—危機的転換期の諸相と政治手法」  
辻中 豊（北九州大学）

### ○現代比較政治研究会（北九州国家論研究会）

北部九州を中心とした若手研究者による比較政治分析のための研究会。構成人数12名。

この半年間の報告者及びテーマ

- 9月25日 「1930年代のアメリカ政治」  
藪野祐三（北九州大学）
- 10月23日 『危機の政治学』刊行準備会

### ○中四国法政学会

中四国在住の法学及び政治学の研究者の研究連絡且つ親睦の団体。構成人数約250名。

11月17日の公法政治国際部会の報告者及びテーマ

- 「学生の平和意識」  
上野裕久（広島修道大学）
- 「地方議会における定数は正について」  
足守 浩（岡山理科大学）
- 「集会・集団行動の自由」  
坂本昌成（広島大学）
- 「イギリスにおける地方自治」  
妹尾克敏（新見女子短期大学）

## 隣接学会案内

開催日が迫ったものもあり御利用いただけないおそれもありますが、会員の皆様の関心の比較的高いと思われる以下の4学会の研究会の予定を御案内します。

日本国際政治学会 5月18,19日 於 拓殖大学  
テーマ「国際政治と倫理」  
「核と東西ヨーロッパ」

---

# 学 会 ニ ュ ー ス

---

なお、秋季大会の日程は未定

日本平和学会 5月25,26日 於 創価大学

共通論題「構造的暴力」

日本行政学会 5月11,12日 於 学習院大学

共通論題「内閣制度をめぐる理論と実態」

社会思想史学会 10月12,13日 於 熊本商科大学

テーマ「ルカーチと現代」

## 会 員 の 異 動

たま付加されたためか、会員1,000名を突破せんとする学会規模の拡大ゆえか、意外に仕事は多く、次々に生起する問題に追われ続けた半年であった。ようやく年度末の会計監査と理事会を終えて一息つくことができた。

一息ついてみれば、西川理事長も元気になられ、代ってくたびれた顔をしている者もない。論文が書けなくなったという話も聞かない。それはひとえに神戸大学法学部の事務機構が助けてくれたお蔭だと思う。

それにしても、次の新事務局に引き渡されるダンボールの数が増えることは間違いない。どこか政治学会記録の文書館の役割を引き受ける大学はないだろうか。なければ古文書をどこかで処分する他ないが、その仕分け作業は大変な仕事となろう。

政治学会の活動を充実させたい、一つ位は意味のある仕事を付け加えたいという希望と、各担当校が一つづつ仕事を追加しては大変、むしろ行政改革こそ子孫のため、という自戒との間で事務局は揺れ動きながら、2年間を終えることになりそうです。

## 会費納入のお願い

新年度のはじまりにあたって、1985年度の会費(3,500円)をお送り頂くようお願いいたします。また、本年は理事選挙の年です。学会規約第8条、理事選出規程第2条により、1983年度以降の会費を滞納されている方は会員資格を喪失したものとみなされ、選挙の投票用紙をはじめとして、今後の御案内をお送りすることができません。会費を滞納されている方は、折り返し納入されるよう、お願いします。なお、郵便振替の払込票は領収書のかわりとなりますので最低1年間は保存しておいて下さい。

## 事務局から

事務局を引き受けるにあたって、これまでの事務局経験者から、二つの助言をいただいた。一つは、「大変ですよ。何人かで分担しないと結構仕事はありますよ」というもの。もう一つは、「学会事務などたいしたことはないですよ。仕事にくたびれた時に気分転換かたがたやれば済んでしまいますよ」というものであった。事実が後者であることを折りつつも、引き継いだおびたしいダンボール箱におびえて、前者の事態に備える布陣をとった。

そうしておいてよかった、というのが偽らざる実感である。学術会議問題のような新しい仕事がたま

1985年5月1日

発行 日本政治学会事務局

犬 童 一 男

〒657 神戸市灘区六甲台町

神戸大学法学部内

TEL (078)881-1212(内線3013)

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会